

2022年度年末手当の会社回答に対する抗議声明

JR東日本会社は回答期日が11月16日までも関わらず、11月11日に「2.4ヵ月+2万円」という要求額に遠く及ばない回答を示した。第2回交渉では、職場から集めた6,000件を超える意見を基に、要求の満額回答に向けて議論を行い、「職場の努力により黒字転換を果たしたこと」「有利子負債の増加は期末手当の抑制理由にならないこと」「組合員、社員の生活を守ること」を確認してきた。しかし、第3回交渉で会社より示された回答は、私達の労働実感や生活実感からかけ離れた回答であり、断じて受け入れられるものではない！

回答では「職場のみなさんの努力によって黒字を達成できた。社員の皆さん一人ひとりが安全・安定輸送、質の高いサービス、価値創造の実現に向けて取り組んだことの表れである」「第2四半期決算は黒字を確保できたが、厳しい課題、取り巻く状況などを勘案して回答している。プラス2万円を含めて、社員の皆さんが頑張ってきたこと、今後のチャレンジに対する高い期待として踏み込んだ回答であり、覚悟を持っての最大限の回答である」と述べている。回答のとおり、3期ぶりの黒字を達成できたのは、「新たなジョブローテーション」「現業機関における柔軟な働き方」「組織の再編」などの施策を担いながら、黒字化に向けて一人ひとりが自ら考え、安全安定輸送に尽力してきた結果である。しかし、更に高い目標を課せられ、賃金が抑制されて、2万円でチャレンジに期待するなど、多くの組合員・社員は納得をしていない。会社は私達に本当に向き合っていると言うのであれば、この回答を直ちに撤回すべきである！

回答後、千葉地本は各機関代表者会議を開催し、「回答に対してどう思うか」「自分達の年末手当に向けた意識はどうであったのか」などを議論してきたが、全ての参加者から、回答に対しての怒りの声が出された。特に、「黒字の評価が夏季手当より0.1ヶ月+2万しかないのは納得できない」「係数2をカットしておいて、黒字になっても低額回答は許せない」「再申し入れを行いたたかうべきだ」という声も出されているため、回答に対して13日までに更に組合員・社員の声を集め、怒りの情報を創意工夫して取り組むことを確認してきた。そして、短い期間で回答に対する様々な声を集約することができたが、殆どが低額回答に対する怒りの声である。本当に私たちの声を受け止めた結果なのかと怒りと不満の声が渦巻く結果となっている。

一方、一部の社員から「私達の声を受けとめて頂いた結果」と言われているが、私達は「会社よりの立場だけ予想を下回った」「真面目に働くのが馬鹿馬鹿しい」「低額回答はその声のせいではないか」など、乖離のある声を多くの社員から聞いている。しかし、私達がどれだけ怒りの声を発信しても、「出してくれるだけありがたい」という世論形成されている現実がある以上、これを打破するための行動をするしかない。そのためには組合員一人ひとりがこの怒りを基に、JR東労組に結集し、組織の力で賃金や労働条件の向上を実現するしか道はない。

そして、私達の年末手当のたたかいはまだ終わっていない。再度会社に求める！会社は速やかに2.4ヵ月+2万円の回答を撤回し、私達の要求を満額で回答すべきだ！

2022年11月13日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部